

登録番号 第 23124 号

オシオキ<sup>®</sup>MX1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植後 14 日から使用できる中期除草剤です。
  - 4 葉期のヒエに対して安定した効果を示します(移植水稻)。
  - 多年生のカヤツリグサ雑草や難防除雑草に高い効果を示します。
  - SU 抵抗性を獲得した雑草に対しても効果が期待できます。

オシオキは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	アジムスルフロン・・・0.18% ピリフタリド・・・1.8% メソトリオン・・・1.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2015年9月30日現在の内容です。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 マツバ ホタル ハラモダカ ミスガヤツリ ウリカ クダマ ホダカ ヒルムシロ セリ コウキカ シズイ	移植後 14 日～ ヒエ4 葉期 ただし、収穫 45 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布
直播水稻	水田一年生雑草 マツバ ホタル ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ	稲3 葉期～ ヒエ3.5 葉期 ただし、収穫 45 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布

アジムスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内

\*については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは草丈 10cm 以下、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは 4 葉期まで、クログワイは生育期（草丈 30cm 以下）まで、オモダカは生育期（矢じり葉 3 葉期）まで、ヒルムシロは移植水稲では生育期まで、直播水稲では発生期まで、セリは移植水稲では再生前～生育期まで、直播水稲では再生前～再生始期まで、コウキヤガラ、シズイは草丈 30cm 以下が本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態（水深 3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (8) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から 5m 離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深 2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (12) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

---

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。